

後援会の 力を借りて、 人材育成を加速。

日本福祉大学学長
見玉 善郎

Yoshiro Kodama

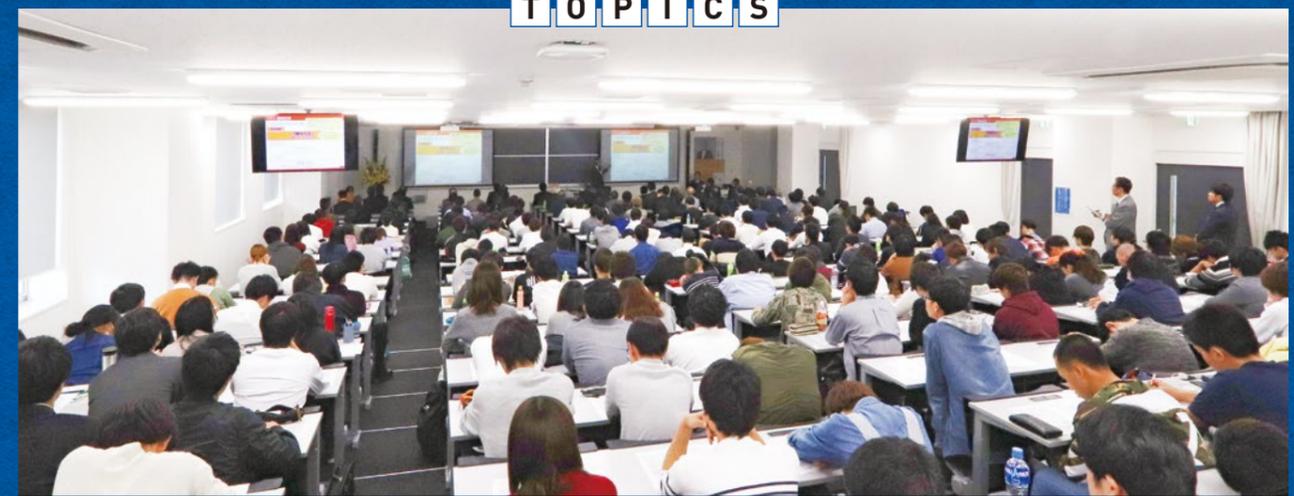
日本福祉大学後援会の皆様には、日頃から本学発展のためにさまざまなご支援・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、本学は1953年に中部社会事業短期大学として創立されて本年度で65年目を迎え、現在は8学部4大学院研究科を擁する「ふくしの総合大学」へと発展してきました。学部学生が学ぶ3つのキャンパス（美浜キャンパス・半田キャンパス・東海キャンパス）は、愛知県知多半島にあり、自然が豊かで、産業活動や住民・NPO活動が盛んであることから、「日本で一番元気のある半島」とも言われています。この地の利を活かして、各学部ではキャンパスでの講義やゼミでの学びに加えて、学生が地域に飛び出し、地域の住民や組織の方々から実践的に学ぶ

フィールドワークに力を入れています。

今後、少子高齢化がさらに進展する社会においては、生活上のさまざまな困難や課題を抱える人々に寄り添い、講義や実践的な学びを通じて身につけた確かな専門知識と技術をもって、人々のしあわせな暮らしの実現に貢献できる専門職の養成をさらに加速させていきたいと考えています。

このような取り組みに、今後さらなるご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、後援会の皆様のみますますのご活躍とご発展を祈念いたします。



TOPICS

安川 彰吉 後援会 会長による特別講演会を実施しました。

日 時 | 2018年11月17日(土)13時30分～14時30分

会 場 | 日本福祉大学 東海キャンパスC201教室

講演ダイジェスト

演 題

地域を見据え、 世界で活躍するために ～人づくり、リーダーづくり～



後援会 会長
安川 彰吉
愛知製鋼株式会社
元取締役会長

東京大学工学部船用機械工学科卒。昭和44年トヨタ自動車工業株式会社(現・トヨタ自動車)入社。取締役、常務役員を経て、豊田工業株式会社(現・ジェイテクト)取締役副社長に就任。その後、愛知製鋼株式会社取締役副社長に就任し、取締役社長、取締役会長、相談役などを歴任。

トヨタ自動車株式会社、株式会社ジェイテクト、愛知製鋼株式会社でさまざまな経験を積んだ安川氏。愛知製鋼株式会社時代には社長就任直後にリーマン・ショックが発生し、創業以来の赤字に陥ったものの、組織の意識改革に尽力して翌年に黒字化を達成。これらの経験を踏まえ、人づくり、リーダーづくりのヒントをお話いただきました。

安川氏は「人づくりは自分づくり。キーワードは時間である」とし、時間をいかに上手く使うかが人生の充実度を高めると熱弁。また、「私なりに人間を因数分解してみると、『心・頭・体(しん・ず・たい)』の3つの要素になる」と述べ、ベクトルの3要素に当てはめて時間の活用法を図で説明。作用点は心(意識・志)、方向は頭(知識・考え方)、大きさは体(行動・徹底)になるとし、「重要なのは、自ら学び自ら考えること、人と交わり人から学ぶこと、場を求め場から学ぶことであり、そのすべてが自分の『入力』となり、大きな『出力』につながる」と述べました。

次にリーダーに必要な条件として、「熱きハートと氷の目(冷静な頭脳)」、「プロアクション人間(先手予知型人間)」、「責任と遂行力」、「各種能力(観察力、判断力、先見力/洞察力(インサイト)、創造力/想像力、決断力、ソフトな統

率力)」、「心の強さ」の5つを列挙。リーダーは結果を求められるが、結果だけを見るのではなくプロセスが大事と語り、そのうえで、「リーダーも人間。テクニックというよりは最終的に人間力が問われる。先ほど述べたように出力が欲しければ、入力必須」と力説しました。さらに講演後半では、安川氏の実践例として愛知製鋼株式会社で進めた経営改革の内容を丁寧に紹介。意識改革を中心に、手書きメモへのこだわりや記憶に残りやすいスローガンづくりに腐心したことなど独自の戦略を明かし、講演を締めくくりました。

